

【記録用紙記入例】

■ 事例の概要 （宮之浦）高 （2）年 （大原 大）

体育祭の選手決めで、友達から無理やり長距離走の選手に選ばれ、それまでの友達への不満が爆発し、不登校傾向が見られるようになった。現在、学校を週に2～3日欠席する状況にある。母親も困っている。

■ 情報収集・整理：支援に結びつきそうなストロングポイント・資源を質問によって明らかにする。

	質問内容	質問に対する情報提供の内容	質問によって明らかになった支援のためのストロングポイントや資源
生理的・身体的機能に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・体調面の不調は？ ・学習面のつまずきは？ ・生活リズムは？ ・体格や発育状態は？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・頭痛を訴えることがよくある。 ・成績は中位。特に気にかかることはない。 ・一日中ゲームをしていることが多く、昼夜逆転の生活である。 ・特に気にかかることはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は理解できている。
精神的・心理的状態に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・性格は？ ・進路希望は？ ・得意教科や苦手教科は？ ・興味を持っていることは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・まじめで、少し頑固な面がある。 ・大学に進学したい気持ちがある。 ・得意教科は社会、苦手教科は数学である。 ・ゲームの影響で、プログラミングに興味をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まじめに取り組める性格である。 ・大学進学という目標がある。 ・社会が得意である。 ・プログラミングに興味をもっている。
社会環境状態に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の時の交友関係は？ ・家庭訪問時の様子は？ ・本人との会話は？ ・信頼している先生は？ ・母親の人柄は？ ・母親の収入は？ ・兄弟関係は？ ・SCとのつながりは？ ・収入に関して福祉との連携は？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好で、部活にも積極的に参加できていた。 ・部屋から出てこなかった。 ・友達への不信感と進路の悩みをようやく話してくれた。 ・保健室で養護教諭にはよく話をしているようだ。 ・小5の時から母子家庭で子供との関わりを大切にしたいが時間が作れないことが多いようだ。 ・本人の希望にそって大学進学をさせたいと考えているが、私大は経済的理由から反対している。 ・兄は大学1年、弟は中1。 ・来月のSC来校で、面談を予約している。 ・まだできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の時、仲の良い友人がいる。 ・担任に悩みを話すことができる。 ・養護教諭と信頼関係ができてきている。 ・子供との関わりを大切にしたいと思っている。 ・誰かと話をしてみようという気持ちがある。

■ アセスメント：現在の状態を捉える。

支援の対象	<p style="text-align: center;">ストロングポイントと心情の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストロングポイントや資源に気付く。 ・各人の困っていることやニーズに気付く。
大	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスメイトに対して不信感を抱いている。 ・大学進学希望から授業を心配し始めている。 ・自分の希望や家庭の状況にあった進学先を知りたい。 ・SNSでコミュニケーションをあまりとらなくなっていて、負担感を感じるようになっている。
母親	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向にある息子への接し方を教えてほしい。（昼夜逆転の生活、ゲーム） ・経済的な負担があるので、奨学金等の情報を教えてほしい。

■ 目標の立案：アセスメントした状態像からストロングポイント・資源を生かした指導・支援の方向性を決める。

<p>信頼できる友人や教職員との交流を通じて、 (ストロングポイント・資源) 信頼関係を深める経験を積んだり、学習や進路に関する不安を軽減したりすることで、 (困っていること・ニーズ) 学校生活に対する意欲を高める。 (目指す姿・状態)</p>
--

■ 支援内容の検討：有効性、実効性を考慮して、具体的な支援内容を考える。

支援内容			順位付け等
多角的な関わり方・支え方を構想する。			
誰が	誰に	どのような機会に・どのようなことを	
担任	大	放課後、SNS 利用やマナーについて悩みを聞き、考えさせる場面を設定する。	
教科担任	大	授業中や放課後を活用して、本人の苦手分野の個別指導を実施する。	
養護教諭・SC	大	教育相談を行い、学校生活や進路についての悩みを聞く。	
担任・教科担任	学級全体	グループ活動の場面を設定し、互いに意見を述べ、認め合える環境づくりを行う。	
進路指導部・SSW	母親	進学先の経済的優遇措置や奨学金等の進路情報について提供する。	
生徒指導部	担任	学級で行う「人間関係づくりのプログラム」の資料を集めて、提供する。	

支援者及び関係機関の例

管理職、生徒指導主任、学年主任、副担任、養護教諭、教育相談担当者、教科担任、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医療機関、相談機関、適応指導教室、市町村福祉課、児童相談所